

# 大人の 社会見学

鹿屋の地で育まれた  
名品・名産・名所などの  
よかもんをご紹介します

## 下方の 六地藏



輝北町市成  
市成霊園内



ナビゲーター  
前・市成町内会長 重田嘉康さん

六地藏とは、元々仏教の概念で、人が死んで生まれ変わると言われる6つの道に現れて、人々の苦しみを救う6種の地蔵をあらわすそうです。

諸説ありますが、地獄道の檀陀、餓鬼道の宝珠、畜生道の宝印、修羅道の持地、人道の除蓋障、天道の日光、これらの各地蔵の総称のことです。

今回は、昭和58年3月に旧輝北町の文化財指定を受け、現在は鹿屋市指定文化財に指定されている、輝北町市成の「下方の



六地藏」について、前・市成町内会会長の重田嘉康さんに案内してもらいました。

「戦国時代に戦で亡くなった人を供養するため、塔の形に作られたのが、薩摩・大隅の六地藏塔の起源と言われています。

下方の六地藏は、下方集落の共同墓地・市成霊園内に設置されています。高さが約2mにもなる大きなものと、高さ約50cmほどの小さなものと、2基が建立されており、塔身は六角形の形をしています。そして、大きな塔の各面には、それぞれ異なる6種類の地蔵が彫刻され

ています。また、6種類の地蔵は安置の方位まで定められています。小さな六地藏には、六地藏の名前が刻まれています。管理は、中心になって掃除や点検などをする人がいるほか、墓参りに来た人は誰でも無く花を供えるなど、私たちの身近な存在となっています。

この六地藏には面白い言い伝えがあつて、かつては「イボ」の神としても親しまれていたそうです。大きな塔のあちこちには指が入るぐらいの穴が数多く見られますが、その穴に大豆をつめたりして供えて、イボ治療の祈願をする風習が最近まで残っていたそうです。今でこそ手術などでイボを取り除きますが、当時の信仰が垣間見えるエピソードです。

これからも、この地域の守り神として、地域全体で大切に管理していきたいです」